

かわにし

議会だより

第100号

2010

1.15



お～い雪だ！
はばたけ
おらがの雪ん子

祝 議会だより100号発刊

町民と議会のかけはしとして 2

給食室整備に1億8500万円 8

食教育など5議員が町政をただす ... 12

小松小学校グラウンドにて

●発行／山形県川西町議会

●編集／議会広報特別委員会

祝 議会だより 100号 町民と議 会のかけはしとして

紙面のさらなる 充実を期して

川西町議会だよりが節目の100号の発刊を迎えましたこと、誠に光栄に存じます。昭和60年4月の創刊以来、地方自治の重要性に鑑み、町の諸施策決定に至るプロセスや議会活動状況など、町民の皆様幅広く知っていただくことを念頭に、広報特別委員会を設置して議員自らの編集にこだわってきました。



議会議長 金子 一郎

創刊から25年の永きの間、営々と発刊してきました議会だよりは、本町のひとつの歴史の証として、また、議会の羅針盤として貴重な財産であると思います。

町民の皆様には、今日までモニターやアドバイザー制度を通じてご意見やご指導をいただいております。また、議員自ら視察や研修に積極的に取り組みその編集技術の習得に努めております。

おかげさまで、今日まで数次にわたり、全国や県からの表彰の栄に浴し、また、県内外から多くの視察者を受け入れてきました。

『継続は力なり』、100号をひとつの通過点として、議会の役割を分かり易くお知らせできますよう更なる研鑽を重ねて参りますので、今後ともよろしくご協力をお願い申し上げます。

議会だより 100号を祝して

川西町議会だよりが、昭和60年4月の創刊以来、今号で記念すべき100号を迎えられましたこと、誠にめでとうございます。

議会だよりは長年にわたり、取材、編集、校正までのすべてを議員自らが手掛け、発行を続けてこられたことに心から敬意を表します。

「町民に愛される広報」をモットーに、町政に係る重要



町長 原田 俊二

な情報を、議会独自の視点から町民の皆さんにわかりやすく伝えられており、議会の情報公開と町民への説明責任が十分に果たされております。

これは川西町まちづくり基本条例に謳っている情報の共有、公開と町民参加を基本とすることに通じており、本町が目指す協働のまちづくりの一翼を担っていただいております。

現在、情報技術が飛躍的な速さで進歩しており、今後、紙面での議会だよりのみならず、議会ホームページの活用や、インターネットでの議会中継の取り組みなどがさらなる議会の充実発展のために必要になってくると思われます。

議員の皆様におかれましては、なお一層のご研鑽のもと、積極的に広報活動に取り組まれることを期待し、お祝いのことばといたします。

創刊号より

議会だよりが創刊されたのは、昭和60年4月である。

創刊号の「編集の後」には『町政の現状や問題点などが、議会の審議や議員の発言、当局の答弁から受け取られ、町政について一層関心が持たれ理解を深めることができ、町政の民主化・活性化のために実をあげることができ』と、その目的が書かれている。

議会だよりは、町の施策の最終意思決定機関である議会における審議の経過を町民の皆

様にお知らせすることが最大の使命であり、情報の公開度と透明性が求められている。

議会だよりの編集には当初からいくつかの原則があった。

- 1 議員だけの編集
- 2 翌月15日発行
- 3 一般質問は発言議員が原稿を書くことの3点である。

議会だよりの創刊まで当時の議員で議論され決められたことであるが、いずれもこの100号まで川西町議会だより編集の伝統として引き継がれている。



議会だより創刊号

全国コンクールで4回 輝かしい受賞歴

全国町村議会議長会では、議会だよりの編集技術向上と紙面内容の更なる充実に資することを目的に、昭和61年度から「議会広報全国コンクール」を開催している。

川西町議会だよりは、これまで4回の入賞を果たしている。

第2回コンクール（昭和63年2月、鈴木広委員長）で第10号が「入選」し、山形県内では初の受賞となった。

第4回コンクール（平成2年2月、高橋輝行委員長）で第18号が「入



全国コンクールで初入選、受賞のため昭和63年2月

選。

第7回コンクール（平成5年2月、佐々木賢一委員長）第30号が「奨励賞」。

第8回コンクール（平成6年2月、佐々木賢一委員長）第32号が「奨励賞」を受賞し、議会史に大きな足跡を残した。

全国では議会広報の編集レベルが年々向上し、合併により町村数が減少したとはいえ、毎年200を超える応募があり、入賞は至難となっている。

100号をたどる

これまで発行された全号の表紙を紹介し、町と議会の歴史をたどって
みました。

川西町ではこんなことがありました

4月 議会だより創刊号発行
8月 指定金融機関制度導入
9月 合併30周年記念式典開催
11月 記念事業NHKのど自慢

11月 埋蔵文化財資料展示館竣工
11月 吉島小学校竣工

2月 アルカディアの里「東京川西会」設立
3月 吉島幼稚園竣工
4月 町議会議員選挙（定数24）

2月 全国広報コンクール初入選（第10号）
7月 置賜家畜市場竣工
7月 大塚小学校竣工
10月 フラワー長井線開業

2月 川西温泉湧出
9月 交通死亡事故ゼロ2500日達成
11月 公共下水道一部供用開始

2月 全国広報コンクールで二度目の入選（第18号）
3月 総合運動公園及びクラブハウス「AIK」竣工
6月 大川小学校竣工

3月 川西町物産協会設立
4月 町議会議員選挙（定数22）
6月 高山小学校竣工
7月 特老「そよ風の森」開所

8月 浴浴センター「まどか」竣工
10月 第47回国民体育大会ホッケー競技会を本町で開催
11月 町営及び県営「館の北団地」竣工

2月 全国広報コンクールで奨励賞（第30号）
3月 玉庭保育所竣工
10月 中郡小学校竣工

2月 全国広報コンクールで2年連続奨励賞（第32号）
3月 フレンドリープラザ竣工
10月 窓口にコンピューター導入

4月 町議会議員選挙（定数22）
10月 合併40周年記念式典・町田市と災害時相互援助協定締結
11月 夏目橋・吉島橋竣工

4月 第一、第二中学校開校
7月 資源ごみの分別収集を開始
11月 美女木ニュータウン宅地分譲予約受付開始

昭和
60年



第1号



第2号



第3号



第4号

昭和
61年



第5号



第6号



第7号



第8号

昭和
62年



第9号



第10号



第11号



第12号

昭和
63年



第13号



第14号



第15号



第16号

平成
元年



第17号



第18号



第19号



第20号

平成
2年



第21号



第22号



第23号



第24号

平成
3年



第25号



第26号



第27号



第28号

平成
4年



第29号



第30号



第31号



第32号

平成
5年



第33号



第34号



第35号



第36号

平成
6年



第37号



第38号



第39号



第40号

平成
7年



第41号



第42号



第43号



第44号

平成
8年



第45号



第46号



第47号



第48号

100号をたどる

平成 21年	平成 20年	平成 19年	平成 18年	平成 17年	平成 16年	平成 15年	平成 14年	平成 13年	平成 12年	平成 11年	平成 10年	平成 9年
第97号	第93号	第89号	第85号	第81号	第77号	第73号	第69号	第65号	第61号	第57号	第53号	第49号
												
第98号	第94号	第90号	第86号	第82号	第78号	第74号	第70号	第66号	第62号	第58号	第54号	第50号
												
第99号	第95号	第91号	第87号	第83号	第79号	第75号	第71号	第67号	第63号	第59号	第55号	第51号
												
第100号	第96号	第92号	第88号	第84号	第80号	第76号	第72号	第68号	第64号	第60号	第56号	第52号
												
12月 4月 3月	6月	7月 4月	4月 4月 2月 1月	9月 6月 4月	10月 8月 6月	4月 3月	11月	6月 4月	11月 9月	10月 8月 4月 4月	11月	11月 3月
高度情報通信網サービス開始 交通死亡事故ゼロ2年間達成 戸籍電算システムが稼働	フレンドリープラザ雪冷房システムが稼働	町議会議員選挙（定数15） 米沢牛と紅大豆の里かわにしの全国展開プロジェクトを推進	例年になく大雪となる、除雪ボランティア活動 環境ISO14001認証 町第四次総合計画スタート デマンド型乗合交通全町運行開始	合併50周年記念式典 役場大課制・グループ制に デマンド型乗合交通運行実験開始	まちづくり基本条例制定 中学生模擬議会開催（平成18年度まで） 新潟県中越大地震発生（川西町の支援）	小松小学校校体育館竣工 町議会議員選挙（定数19）	生きがい交流館竣工	健康福祉センター開所 玉庭中学校・小学校併設竣工	下小松古墳群が国史跡に指定 公立置賜総合病院が本町に開院	北斗幼稚園が開園 町議会議員選挙（定数21） 新ダリヤ園オープン 井上ひさし氏、故黒澤悟郎氏が名誉町民に	全国川西会議（ネットかわにし）で「災害時応急 対策活動の相互支援に関する協定」を締結	訪問看護ステーション開所 兵庫県川西市、新潟県川西町（現十日町市）奈良 県川西町で全国川西会議を設立

新「川西中学校」

給食室整備に

1億8500万円

12月
定例会



おにいさん、おねえさんと食べる給食はおいしいなあ！
(玉庭小中学校)

給食に期待する！

大字洲島 小沼 愛さん

小学校の子供2人がいますが、給食は栄養バランスが取れていて大変いいと思っています。
中学校でも期待してます。



大字小松 古山利子さん 飛来くん

上の子供(2人)の時は、お父さんと違う弁当のおかずを準備するのが大変でした。
中学校給食は大いに期待しています



新中学校となる川西第一中学校

平成23年4月に開校される「新川西中学校」の学校給食は、教育目的の実現のための達成目標(7項目)を定め、児童生徒の心身の健全な発達を促すとともに、給食や授業を通して食に関する指導の強化、地産地消を念頭に地元生産者等との連携、地元食材の活用などから食育の推進が期待されている。

実施方式は、住民の意向や要望を踏まえ、また、調理後の移動が少なく作り手の顔が見える給食や他校との調整が不要であることから合理的である自校方式とした。

規模は、今後の生徒数の推移予測を考慮すると、500食調理できる施設整備が必要であり、ドライシステムの導入により、250㎡の面積が必要。

構造は、利便性、強度外観等を考慮し既存校舎と同様の鉄筋コンクリート造り(RC造)平屋建てで、現一中校舎と体育館の取次廊下北側で校舎に隣接する場所に建設する。

総施設整備費1億8500万円を補正予算に計上した。

平成23年4月開校

給食は自校方式

12月定例会のあらまし

12月定例会が12月8日から18日までの11日間の会期で開催されました。

財産の取得4件が議決された後、一般職の給与条例、過疎計画の変更等の条例2件、指定管理者の指定2件、各会計補正予算6件を各常任委員会、予算特別委員会に付託し審議しました。

一般質問には5議員が新川西中学校における学校給食、町の経済、雇用対策、過疎自立促進法等をとりあげ町政をただしました。

最終日に、予算特別委員会に付託された議案の採択後、本会議で全議案が可決されました。
また、請願1件を採択し水田農業政策の確立についての意見書等3件の意見書を可決しました。

※ 自校方式
学校給食の調理方式には、一カ所で調理し配送するセンター方式、親学校で調理し配送する親子方式、自分の学校で調理する自校方式がある。

かわにし議会だより 第100号 (8)
平成22年1月15日発行

正算
補予

緊急対策

延べ51名の雇用確保

一般会計等6会計の補正予算を予算特別委員会で審査した。

一般会計は、歳入歳出それぞれ2億1411万円を増額するものである。

全員賛成により可決

主な内容

緊急雇用創出対策事業
22年1月から新たに8名の雇用を行う。予算総額は、341万円である。

中学校給食実施に伴う設備等整備事業

平成23年4月から新
川西中学校で「完全自
校給食」を実施する。

そのための給食室の整備を行う。総額1億8500万円である。

善意の「指定寄付」

今年も図書購入費としてご寄付を頂きました。ありがとうございます。寄付の額は、100万円である。

質疑

問 財政調整基金3500万円の積み立ての目的は何か

答 事業の仕分けによる地方交付税の見直しや各種事業の縮小・廃止、さらには暫定税率の廃止に

問 1年近くにわたる緊急雇用創出対策事業が行われてきたがその効果は。

答 この事業は、離職を余儀なくされた失業者に対し、次の雇用までのつなぎとして短期雇用の創出

を目的として行ってきた。今後の8名の雇用を含めると51名の雇用の確保ができたことになり効果は出ている。

総括質疑

橋本 民主党政権に変わり、政策の大転換が図られ、とりわけ「事業仕分け」ではほとんどの事業が見直しされたが、当町に影響が懸念されるものは何か。

町長 現在確認中で、わかりしだい提示していく。

高橋 町は緊急経済対策本部を設置し、

町民生活の安定や、企業活動の情報を収集し、安定的な政策の検討・実施とあるが、この補正予算には活かされて

町民生活の安定や、企業活動の情報を収集し、安定的な政策の検討・実施とあるが、この補正予算には活かされて



ほんとうにたすかります！

過疎計画を変更

給食設備と道路整備

条例等

川西町過疎地域自立促進計画の一部変更

新たに追加になった事業は、「雑魚田茨虫線」「玉庭東線」「南荒井三枚床線」「内方地蔵堂線」「中里西町線」の各舗装補修事業と中学校給食施設整備事業が過疎債（7割交付税戻る借金）を活用し行われることになった。

全員賛成により可決

臨時議会

〈第3回議会臨時会〉
川西町一般会計補正予算

11月16日臨時会が開かれ、新型インフルエンザ感染症予防接種事業に1529万円を補正するもの。

全員賛成により可決

全員賛成により可決

〈第4回議会臨時会〉
川西町一般職員の給与に関する条例の一部改正
後期高齢者医療制度発足に伴い「広域連合」による事業の運営が行われている。寒河江市内に本部があり職員を派遣していることから「通勤手当（50キロ以上を新設）」を改正するもの。

内容は、職員の給与平均の0・2%削減と期末手当0・25月の削減、町長、副町長、教育長、議員など特別職の期末手当0・25月の削減となる提案である。人件費等の削減額は、1655万円と見込まれる。

賛成多数により可決

教育の充実 小中学校パソコンを更新

産得
財取



パソコン操作はまかせて

小中学校「教育用・校務用」パソコンの配備
小中学校教育の充実や的確かつ迅速な事務処理を行うため、教育用パソコン150台、校務用パソコン122台と校務用サーバー、周辺機器等を配備するもの。購入価格は、6004万円である。

全員賛成により可決

地上デジタルテレビの配備
平成23年7月から、テレビが完全地上デジタルに切り替わるため、対応可能なテレビ80台（関連設備配備含む）を学校や中央公民館等に配備するもの。購入価格は、826万円である。

全員賛成により可決

例
条
臨時会

「友愛」に対する町長の考えは

町長「地域主権国家」の確立こそ「友愛」の精神

淀

平成の維新といわれる政権交代で、鳩山新総理は友愛の政治理念を掲げている。この友愛の政治理念は、祖父の鳩山一郎が昭和26年頃、オーストリアのカレルギーの著書に共鳴し、自ら翻訳し「自由と人生」と題して出版。この中に、自由と平等の橋渡しに友愛の精神を問う「友愛革命」の章を載せ、鳩山家は政治信念としていたようだ。11月の予算委員会で、加藤紘

町長

「地域主権国家」の確立こそ、友愛の現代的政策表現であり、政治目標に相応しいものとし、鳩山新総理の考えに期待を寄せ、動向を注視していきたい。

どうする借金返済

淀

800兆という膨大な借金を抱

町長

日本の信用力にあり、借金体質を改善すべきで現実にはありえない。



淀 秀夫 議員

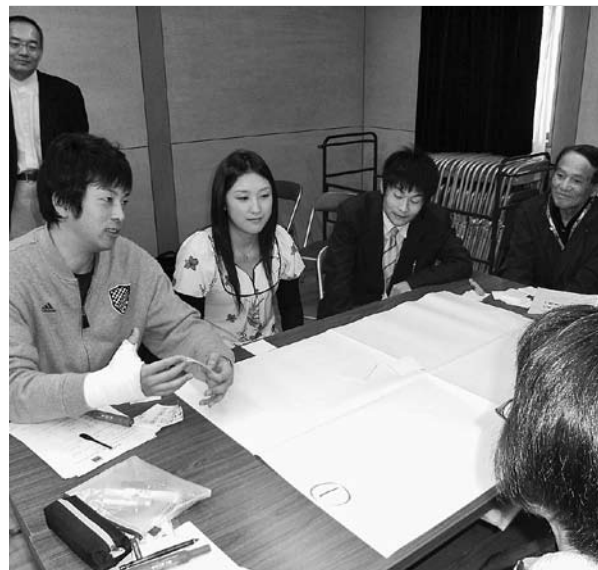
活き活き、女性参画

淀

初の女性県知事誕生で女性の地位向上が期待されている。平成19年度から5カ年計画で始まった「町男女共同参画計画」には、男女（ひと）がみとめあい育てあうまちづくりとある。しかし事業計画が少な

町長

延長、児童などの各保育の充実を図り、共働き世帯への支援に



男女共同参画一本音で話し合う勉強会

淀

今年は戦国武将に関心を持つ「歴女」やカメラブー

定例会2日目に、5人の議員により一般質問が行われました。その内容を要約してお知らせします。

力を入れていく。地域活動の参加に性別、年代に偏りのないよう、今後は女性の新たな視点を活かしたい。

高橋

町長就任以来、行財政改革の一環として交際費の縮減に努めたことは評価したい。近隣市町のように

町長

に町ホームページで使途を公表する考えはないか。

ダリヤ園の入園者は

高橋

近隣市町の観光客数が、米沢市の松が岬公園、天地区の客数は増加したものの、飯豊町のゆり園を始め前年より減少している。ダリヤ園の入園者数を目標10万人としたが、その結果はどうであったか。

町長

5万8809人、対前年比7882人増で、昭和35年開

高橋

減反選択制について

町長

戸別所得補償制度を受けるには、政府が示す減反目標の実施が前提となり、今後も生産調整を推進するものと考えられる。

過疎法の暫定延長は

高橋

暫定延長が、10年期限の新法かいろいろ報じられているが、近々の情報は、

町長

政府民主党は数年延長すると表明している。本町においては財政運営の面から過疎の指定が必須の要件である。さる11月18日の全国町村長大会の際にも、新たな過疎対策法の制定を強く求める特別議決が採択された。引き続き働きかけしていく考えである。

町長交際費の使途は

町長 ホームページで状況を公表する



ダリヤ入園者50,000人達成



高橋輝行 議員

高度情報化のソフト面の展開は

町長 ― 今後役割分担を決め進めていく

橋本 光ケーブルの配線作業もほぼ完了し全町内でケーブルテレビとインターネットが共に利用できるようになるが、加入状況と推進施策はどうか。

町長 12月1日現在、ケーブルテレビで24%、インターネットで14%で、12月12日にサービス開始式を開催し、一層の普及に努め、加入率の向上につなげたい。

橋本 ケーブルの配線という「ハード」

町長 情報作成・発信の仕組みづくりが大切で、行政・住民・企業が主体となり、あるいは協働し計画を立て、それぞれの役割分担の中で進めて行く。

橋本 町ホームページをより充実し、常に新鮮な情報を発信し、更に町内の農産物・商品・製品の販売促進につなげるために

町長 「ド」面はできたが、利用・活用する「ソフト」面での遅れがあるので。

専門の人員を配置してはどうか。



いよいよ開始、光ケーブル通信



橋本欣一 議員

町長 ホームページについては、各部署が直接情報を提供できるシステムに切り替えるよう準備し、新鮮な情報発信ができるよう進めている。

署が直接情報を提供できるシステムに切り替えるよう準備し、新鮮な情報発信ができるよう進めている。

人員の配置については具体的な運営組織と行政の両面から検討したい。

橋本 高齢者・障害者等、情報を十分に活用できない方々に対する援助はどうか。

町長 次年度より様々な方々の協力を得ながら、使いこなせるよう研究したい。

町長 食育教育と学校給食は

橋本 平成23年より新中学校でも給食が始まるが、学校給食法では、食料の生産・流通・消費について正しく理解することとなっている。町内の学校での食育教育はどのように進められているか。

町長 各小学校ごとに稲作体験・野菜

橋本 給食施設の福祉事業等への多目的利用はどうか。

町長 現段階では学校給食の役割を果たすことが優先事項である。

橋本 給食における地産地消の割合と今後の方針は。

町長 県産品使用率は、野菜が約23%、果実が約65%、肉が約50%となっている。町内産の割合は調べていない。ただ、米については100%町内産はえぬきを使用している。犬川・吉島小では地元農家からの食材調達も実施されており、こういった取り組みを強化したい。

橋本 給食施設への多目的利用はどうか。

町長 現段階では学校給食の役割を果たすことが優先事項である。

地域との連帯で食教育の充実を求める

教育長 ― 第4次総合計画の見直しの段階で検討

齊藤 中学校給食に踏み切った判断要因は何か。

町長 社会情勢や就労環境の変化により弁当作りが負担となっている状況から、中学校での給食実施要望が多数あった。

齊藤 教育の一環としての学校給食の基本理念はあるか。

町長 学校給食法に規定されている命や健康の大切さや労働に感謝する心、食べる喜び等を育む指導を基本に運営していく。

齊藤 町直営による単独校方式での完全給食選択の根拠は何か。

町長 地域、家庭、学校等様々な分野において食を学ぶ機会を提供は重要である。農業を基幹産業とする川西町にとって、食育川西を発信することは重要な課題であり、食育の推進について第4

町長 小学校給食実施の成果を踏まえ、食育の推進、食味の充実、そして指導体制の確保を重視する立場からセンターや親子方式ではなく「単独調理方式」の選択を行った。

齊藤 地産地消を基盤にした「食育・食教育」の方針を町の後期基本計画に盛り込むべき。

町長 地域、家庭、学校等様々な分野において食を学ぶ機会を提供は重要である。農業を基幹産業とする川西町にとって、食育川西を発信することは重要な課題であり、食育の推進について第4

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 小学校給食実施の成果を踏まえ、食育の推進、食味の充実、そして指導体制の確保を重視する立場からセンターや親子方式ではなく「単独調理方式」の選択を行った。

齊藤 地産地消を基盤にした「食育・食教育」の方針を町の後期基本計画に盛り込むべき。

町長 地域、家庭、学校等様々な分野において食を学ぶ機会を提供は重要である。農業を基幹産業とする川西町にとって、食育川西を発信することは重要な課題であり、食育の推進について第4

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守

町長 代表的なものとして置農生の「えき・まち」活性化プロジェクトやネクスト川西、さくら見守り隊、里山と下小松古墳群を守る会、チョウセンアカシジミを守



齊藤智志 議員



いつもおいしい学校給食

一般質問



佐々木賢一 議員

子ども交流プロジェクトを進めよ

町長―受入協議会設置に向け体制を整備

佐々木 総務省、農林水産省、文部科学省3省連携事業の「こ

ども農山漁村交流プロジェクト」モデル事業が平成20年より5カ年計画で行われている。

交流人口の拡大の波及効果は極めて大きいと思われるが、町として受入れをどう考えているか。

町長 全国2万3000校の小学5年生が農山漁村で一週間程度の宿泊体験活動を行うもので、町が加入

する推進協議会の設立が受入の条件となっている。

昨年、今年と地域の方にも参加していただき先進地視察研修を実施した。

今後は町、関係機関、地域が連携して受入協議会設置に向け体制整備を行いたい。

佐々木 農家民宿を進める上での課題をどうとらえているか。

町長 家屋の改修費の負担が大きいこと、冬期間の利用客が

少ないこと、労働力確保や家族の協力が不可欠なことなどがあげられる。町としては、開業希望者への情報提供や、課題解決への支援策を検討していく。

経済・雇用対策をたどす

佐々木 本年6月から実施している経済危機対策・雇用対策の効果は。

町長 経済危機対策として計画した約4億2000万円のう

ち、現在まで67件、3億2700万円を発注し、町内事業者との契約は2億6000万円となっており、町内経済の下支えにつながっている。

雇用対策は国の制度を活用し、役場等において43名の新規雇用を行ったが、更に8名の雇用を予定している。

佐々木 失業率と今後の見通しは。

町長 10月の米沢管内の有効求人倍率は0.33で、町内の求職者は65名だった。また新規学卒者の就職内定率は56.1%と極めて厳しい。年末にかけて事業所



子ども交流プロジェクトモデル地区の福島県南会津町を視察研修

の円滑な資金調達、求職者の生活・雇用安定対策を行う。

佐々木 今後の経済・雇用対策をどう進めるか。

町長 国の第2次補正予算と連動し、町独自の事業にも取り組みたい。また、職業能力を高める雇用プログラムに対する支援や、緊急雇用創出事業の前倒し対応をしたい

意見書

核兵器をなくせ

3意見書を可決

恒久平和を願って

◎核兵器の廃絶と恒久平和を求める意見書

国は、被爆65周年を迎える2010年に開かれる核拡散防止条約再検討会議に向けて、国是である非核三原則を堅持するとともに、平和市長会議が提唱する2020年までに核兵器廃絶を目指す「2020ビジョン」を支持し実現すること、及び核拡散防止条約（NPT）の遵守と加盟促進に全力で取り組むこと。

全員賛成により可決

農業を守れ

◎水田農業政策の確立についての意見書

米戸別所得補償モデル事業の家族労働費は、他産業並みの労賃を全額算入すること。政府備蓄米は適正水準を確保すること。

水田利活用自給力向上事業は、地域特産物などの生産に対し、主食米並みの所得確保し得る支援を行うこと。新規需要米の実需者掘り起しを行うこと。

全員賛成により可決

◎日本農業を守る貿易交渉対応についての意見書

WTO農業交渉においては、食料安全保障を強化する公平公正な貿易ルールを確立すること。十分な数の重要品目を確保し、上限関税の導入を阻止すること。EPA・FTA交渉においては、わが国農業に甚大な影響がないよう断固たる対応を堅持すること。

全員賛成により可決

採択

◎核兵器廃絶と恒久平和を求める請願

《請願者》
米沢市塩井町塩野1-1
日本労働組合総連合会
置賜地域協議会
議長 金子 浩

全員賛成により可決

継続

◎議員定数削減に関する請願

《請願者》
川西町大字時田135
2番地の1
川西町の未来を考える会
代表 菅野一則

審議未了につき継続

請願

下小松古墳群の現地調査

委員会 レポート

10月7日、下小松古墳群環境整備事業に関する現地調査を行った。下小松古墳群は平成12年に国の史跡に指定され、前方後円墳大小188基ほどの東北有数の古墳群。

調査には地元の里山と古墳を守る会会長や、地元地域の方々が参考人として参加した。町の緊急経済対策事業により1500万円で遊歩道舗装整備などを進めるもので、案内看板



整備が進む下小松古墳群



商工会役員との意見交換

「若者定住と子育て支援」商工業振興策」をテーマとして11月4日、町商工会役員との意見交換会を行った。

プレミアム商品券については、12月に3回目の発行を予定しており、更に今後もプレミアムの割増しや大手スーパーでの利用も視野に検討したい。

また、商店街の活性化事業として「道の駅」構想について農工商一体となって実現に向けていきたい等、お話をいただいた。

雇用の場の確保や子育て環境の整備は、将来に向けて大事なことであり、施策を講じていいただきたい等、これらに付随して多岐にわたる意見が出されたが、いずれも今後の町づくりの課題であり、双方知恵を出し合う必要を痛感した。

指定 管理者

フレンドリープラザ・斎場

公募によらず指定



遅筆道文庫プロジェクトが再び指定管理者となったフレンドリープラザ

今回それぞれの施設の指定管理者選定にあたっては、施設の性格・機能・規模等を考慮し、これまで3年間指定管理者として頑張ってきた「遅筆道文庫プロジェクト」と「川西葬祭社」に引き続きお願いするということで、「公募によらず指定方法」での選定が提案された。

フレンドリープラザ、川西町図書館、遅筆道文庫の維持管理「特定非営利活動法人・遅筆道文庫プロジェクト」は、文化の創造と発信に関する事業を行い、心豊かな地

域社会の形成に寄与することを目的に設立され、平成19年度から3年間、3施設の指定管理者として管理運営を行ってきた。引き続き向こう3年間「遅筆道文庫プロジェクト」を公募によらずに指定することの議決を求められた。

全員賛成により可決

川西町斎場の維持管理川西町斎場の指定管理者を引き続き向こう3年間「有限会社・川西葬祭社」を公募によらずに指定することの議決を求められた。

全員賛成により可決

広報モニターから

ひとこと②

上小松 竹田倉一さん



私は土日・夜間議会を開催してみたらどうかと思っています。実現すれば町政に対する関心が増し、傍聴者も増えるだろうし、何よりも「開かれた議会」としての名声が高まるのではないかと思います。また平日頃、町民、

特に若い世代の町政に対する意識の低さが気になっています。それを変えるために、若者との意見交換の場などを設けたらと思います。自分たちが声をあげれば聞いてくれる人が必ずいる、そう思うことができれば、町政にも関心を持てるようになると思います。

最後に、議会を傍聴して感じたことは、全員ではありませんが議員の方々のテンションの低さです。決まった流れがあるのでしょうか、後ろには傍聴者もテレビカメラもいます。その向こうには投票してくれた川西町民のみならず、置賜全体の人が見ているのです。そうした意識が少し低いのではないかと感じました。



❖ プロフィール ❖

さき み さと
佐々木 美 里

川西町上奥田。東沢地区協働のまちづくり推進会議のシンクタンク「夢里創造研究所」ヤング班の一員として地域活動に意欲的に取り組んでいる。小松小学校臨時職員。

今回の町民の声は、東沢夢里創造研究所で、地域づくり事業に取り組んでいる佐々木美里さんに、まちづくりについて聞いてみました。

「夢里創造研究所ヤング班が組織された経緯は？」

昨年8月、地区夏祭りに参加した際、事務局より声をかけられ結成となりました。

夢里創造研究所には地域対策班・情報対策班があり、私達は若者が企画する活動を行っています。

「ヤング班はどのような活動をしていますか？」

お子さんからご年配の方まで楽しく参加できる催しの企画・運営をしています。いろいろなお酒を楽しめるカクテルバーを初め、スノーモービル試乗体験、流しそうめん、ウォークラリー、手づくり体験会等様々な催しをゼロから企画し、沢山の方の協力を得ながら実行。その活動広報紙とし「ゆめり通信」という手描きのお便りを東



納涼夏祭りに「BAR YUMERI」を出店したヤング班のメンバー

沢全戸に毎月発行しています。

「これからの活動を教えて下さい」

試行錯誤の1年で築いたベースを基にメンバーを増やし、「おもしろいがあったあ」と喜んでいただけるイベントを行いたいです。皆さんも、興味のある方は

ぜひいらして下さい♪お待ちしております。

「川西町をどんな町にしたいですか？」

人の温かさ・自然の豊かさをいつも感じられるのが魅力だと思います。新しい発想や視点で可能性を広げ更に、人に・自然に優しい町になればと思います。

編集のあとで

▼議会だより100号を記念し、増ページをして全号の表紙に掲載した。▼振り返れば25年の長い歴史があり、編集に携わった広報委員の方々の思いが伝わってくる。▼当初から議員だけで編集することを誇りとして、それを伝統として今日に至っている。▼議会と町民の皆様のかけ橋としての広報の役割を認識し、議会情報の公開度を一層高めるため委員一同研鑽を積み、より良い議会だよりの発行を目指して今後も更なる努力をしたい。(賢)

発行責任者 金子 一郎
委員長 佐々木 賢一
副委員長 斉藤 智志
委員 高橋 輝行
同 高橋 照夫
同 遠藤 章一
同 橋本 欣一